

授業の具体的展開例

〈書くことによる問題解決〉

- T : 数直線の一番長い線はいくつを表しますか。
- C : 70000 から 80000 だから 10000 です。
- T : 小さな目盛りはいくつを表すか分かるかな。
- T : ワークシートに、小さい目盛りがいくつになるのかを書きましょう。また、なぜそうなるのか理由を書きましょう。
- C : (ワークシートに記入)
- T : では、発表して下さい。
- C : 1000 を 10 集めると 10000 になるから、小さい目盛りは 1000 です。
- C : 80000 から 90000 の間に目盛りが 10 個あるから、10000 を 10 個に分けて 1000 です。
- T : 2 人の言ってくれたことを整理します。
～くんは 10 個集める、～さんは 10 個に分けると言ってくれました。
～くんの言ってくれたのは何を 10 個集めるのですか。
- C : 1000 を 10 個集めます。
- T : ～さんの言ってくれたのは何を 10 個に分けるのですか。
- C : 10000 を 10 個に分けます。
- T : では、書けなかった人も、今のヒントに書いてみましょう。
- C : (ワークシートに記入)
- T : 小さな目盛りはいくつになるでしょう。
- C : 10000 を 10 個に分けているから 1000 です。
- T : みんなで数直線を読んでみましょう。
- C : 70000、71000、72000、73000、・・・
- T : では 4 つの競技場の人数を数直線上に表してみましょう。

「活用」の力を育てる評価の工夫

本時は、一目盛りがいくつになるかが分かる、そしてそれを基に、数直線上に数を表したり、数直線上の数をよんだりすることができることを目標にする。評価は、一目盛りをよみとるまでの考え方を書くこと、数直線を使って数を表したりよんだりすることに対して行っていく。

「活用」の力を育てる評価の視点

本時においては、一目盛りがいくつになるかが分かる、そしてそれを基に、数直線上に数を表したり、数直線上の数をよんだりすることが目標である。「活用」の力を育てる方法として、一目盛りをよむまでの考え方を書くこと、数直線を使って、数を表したりよんだりすることの 2 つで指導を行っていく。

- 「活用」の力を評価する具体的な観点としては、
- ① 一目盛りをよみとる考え方を書いて説明することができ、数直線を使って数を表したりよんだりすることができる。
 - ② 一目盛りがいくつになるかが分かり、数直線を使って数を表したりよんだりすることができる。
 - ③ 気付いていなかった事が、説明を聞き、理解することができ、数直線を使って数を表したりよんだりすることができる。
 - ④ 説明を聞いても理解できない。が、考えられる。④状態の児童には、十分な個別指導が必要である。

ワークシート例

一万をこえる数 5 (/) 名前 ()

めあて

東きょうぎ場	107000人
西きょうぎ場	110000人
南きょうぎ場	123000人
北きょうぎ場	75000人

○大きな 目もりの大きさは いくつになるでしょう。

○小さな 目もりの大きさは いくつになるでしょう。

本時の流れへ

評価問題

単元の流れへ

HOME